

北穂高岳山行報告

【山城】北アルプス・北穂高岳

【日程と天候】2016年9月3日（土）～4日（日）晴れ

【メンバー】菊池単独

【行程】

2日 千葉発 16:30-21:00 小淵沢道の駅（仮眠）

3日 小淵沢道の駅 2:30-松本-沢渡駐車場-タクシー-上高地 5:35-横尾-涸沢-
16:30 北穂高岳（小屋泊）

4日 北穂高小屋 6:00-涸沢-横尾-14:50 上高地-帰葉

【目的】

1. 北穂高小屋宿泊
2. 北穂高小屋から槍ヶ岳方面の写真撮影



・穂高・涸沢の山行は今回で6回目である。穂高岳山荘3回、紅葉の涸沢テント泊1回、北穂高小屋が2回である。

数年前までは毎夏にテント泊縦走を行い、2009年8月には燕岳から表銀座、槍ヶ岳を經由、大キレットを慎重に通過し、憧れの北穂高小屋に到着、この瞬間、新穂高から親不知まで繋がったのである。生ビールで一人祝杯をあげて間もなく大雨となり、危うく危険地帯の通過（大キレット・長谷川ピーク・飛騨泣き）がセーフであったと胸を撫で

おろしたことが蘇ってくる。へろへろ状態で夕食まで布団の中で休んでいたが、途中で雨が上がり、槍ヶ岳方面を撮影したかったが、写真撮影する気力は湧かなかった。翌日は終日雨模様の中を上高地まで無事に下れたことで十分満足であった。

- ・小生の山行は、ある目的を立て、一定の期間その目的を達成すべく山行計画を実行している。本格的に山を始めて 4 半世紀ほどは経過したようだ。百名山しかり、アルプスの縦走しかり、主な縦走路は踏破してしまい、最近では体力的にもあまりハードな山行は無理なため、何らかの目的を考え山行の計画を立てている。

この数年の夏山の目的として、残雪と緑と岩山の素晴らしいコントラストの写真撮影に憧れ、涸沢周辺、特に北穂高小屋泊で槍ヶ岳方面のグレイトビューを自ら撮影したいと計画していた。梅雨明け直後を狙ってこの 2~3 年計画したが、天候不順などで実現せず、今年も海の日頃、計画していたが、長年一緒に暮らした愛犬（チワワ）の具合が悪く中止となった。

できれば残雪の残っているショットを撮影したいが、年齢的にチャンスを逃すと穂高岳の高嶺に到達することも難しくなってくるのではと考え、今回のチャンスを大事にした。

- ・休暇を取ってあるため、無理をせずゆっくり山行と考え、ジパングの 3 割引きを利用することとした。千葉発の特急あずさで 6:30 頃出発、1 日目は横尾泊、2 日目に北穂高小屋に宿泊、3 日目下山の計画を立てた。しかし台風の影響で日・月の天気は悪天予想、土曜日のみが晴れベースになっていたため、中止するか、頑張って上高地から一気に北穂高小屋まで行けるか、悩んだ挙句、車で頑張って行くことにした。前日睡眠時間が取れるよう、早めに千葉を出発し。小淵沢道の駅で 4 時間ほど睡眠した。

- ・4 時頃に沢渡駐車場に到着、4:40 頃、相乗りタクシー（4 名で一人 1050 円とバスより割安）で上高地に 5 時 15 分頃到着、5:35 にはスタートできた。

過去に 3 回上高地から入山しているが、3 回とも一気に奥穂高山荘に到達していた。今回はその時より大分高齢になり、果たして小屋まで辿りつけるか不安であった。天気が崩



れ、体調不良であれば涸沢小屋泊も念頭に入れていた。できるだけ軽量化したものの食糧・水が大分多い。オーバーペースになり過ぎないように、正午までには涸沢に到着せねばと考え歩を進めた。久しぶりの涸沢の全貌が見え来るとテンションは高まる。前夜睡眠がとれたため体調がよく、休憩時間を入れても、コース

タイムとほぼ同じ位で瀬沢ヒュッテに到着できた。名物のおでんとおにぎりでしたし休憩、12:20 過ぎ北穂高岳山頂に向けて出発した。



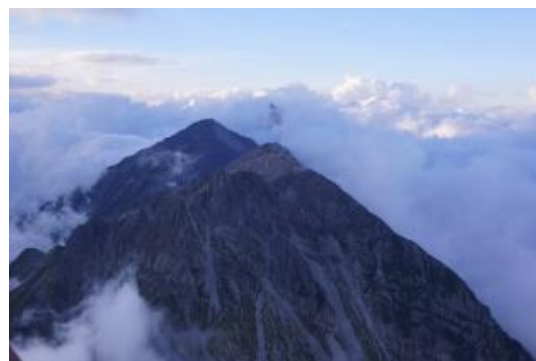
南陵ルートは下山で2回経験しているが、登りは初めて、コースタイムは3時間であるが、さすがに疲れが溜まってきているせいか、急な岩の登山道にペースは徐々に鈍ってきた。山頂手前でみる岩稜帯は大迫力であり気後れする。それでも何とか16:30頃には山頂に到着、雲が多くなり360度のパノラマとはいかないが記念撮影していただいた。



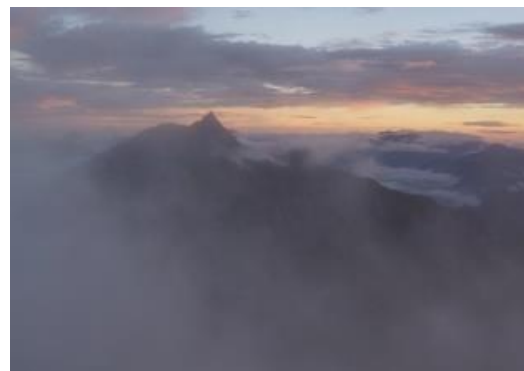
70名の定員に80名の宿泊とのこと、何とか仰向けに隣の方と肩をぶつけないほどのスペースは確保できた。夕食は3回戦仕立て、小生は2回戦目である。500ccの缶ビールを購入し、まずは無事登頂できたことに祝杯を挙げた。夕食は評判の生姜焼き、隣り合わせた私とほぼ同年代の女性は山頂手前で私を追い越し、山頂で記念撮影していただいたが、なんと上高地一岳沢ー前穂高ー奥穂ー北穂と凄いパワーの持ち主である。予約していた奥穂高小屋に早く到着しすぎたため、北穂まで行くように勧められたのだそうだ。東京の山岳会所属でスリムな体形の素敵な方で、どこの会にもいらっしゃるような、恐るべき女性パワー。

- 夕食後、日没までは少し時間があるため、皆さん外でガスの切れるのを待っている。少しずつ雲が切れてきて南岳は見えてきた。そして薄っすら槍穂が見えて、隣り合わせた若いペアと一緒に大感激した。ネットが見える環境であり、山岳天気予想をチェックす

ると、明日の 0 時～6 時が晴れと雨マークでその後、曇りから雨予想、「ひょっとしたら日ノ出の頃、槍が見えるやもと」と淡い期待を抱いて早々と就寝体制になった。



気温が高く、身体が火照っているせいか、あまり眠れない。それでも何とかウトウトはしたようだ。2 回もトイレに行ってみると、ガスガスの暗闇に地面が濡れている。もしや雨が降り始めたかと考え、雨中下山の不安を抱きつつウトウトした。もはや写真撮影など諦めながら、4 時過ぎに起床、荷物を整理し、1 回戦の朝食に間に合うように並んだ。5 時 10 分前、朝食開始。間もなく外から、歓声が聞こえた。「雲が切れてきている。槍が見えるぞ」その声に朝食を中断し外に飛び出した。「やったー。雨でなく霧雨だったのだ、日の出前からガスが切れて雲海が綺麗だ」朝食を素早く済ませ、出発前の撮影タイムを堪能した。





夢にまで描いたこのグレートビュー、モルゲンロートの槍ヶ岳方面、「素晴らしい、来てよかった」美味しいドリップコーヒーをすすりながらの至福のひと時である。ここまで頑張って登ってきたご褒美を神様が下さったのだ。などなど、自らに語り掛け、シャッターを押しまくった。朝陽が南岳の東面を照らし出してくると、7年前に緊張しながら通過してきた鋭い岩の稜線がくっきり見える。早くも、小屋からキレットに向かう単独者が慎重に下って行った。

この景色を撮りたくてここまで来たのだ。数年来の念願が叶ったのだ

・写真撮影を十分楽しみ 6:00 下山開始、乾いたが岩の急な登山道を慎重に焦らず下った。



登りで経験済であるが、最後まで油断は禁物と自分に言い聞かせながら涸沢小屋に到着し一安心、炎天下の暑さと緊張の連続でのどがカラカラ、自動販売機のサッポロ黒ラベル350ccが格別に旨かった。

前日までの天気予想と変わって、暫く崩れる可能性は少ない。静かな夏の終わりと秋の始まりが同居する涸沢をゆっくり楽しみながら、ナナカマドの赤い実・早くも紅葉し始めたナナカマドなどをショットに収めながら、涸沢の余韻に浸った。



- ゆっくりペースで横尾に到着、休憩後はひたすら徳澤園の生ビールを目指して頑張った。徳澤園では大勢の登山客が好み好みの飲み物やスイーツなどを食しており、小生も美味しいソフトクリームにも手を出してしまった。ガソリンとスイーツでエネルギー補給ができ、フィナーレの上高地には14:50に到着、河童橋は相変わらず観光客でごった返していた。
- 定番の竜島温泉「せせらぎの湯」で汗を流し、高速道は眠気を催したため、また渋滞時間でもあったため（小仏トンネルを先頭に25kmの表示あり）、SA/PAで夕食・休憩で時間を費やした。最終的に渋滞が解消した時間でもあり、23時半頃わが家に到着した。